団体名	
大内桜の会	
活動内容	
地域の自然環境を守り、地域の文化を未来を伝えることを目的に、大内畑地区の大内桜周辺を年に数回整備しています。	
活動日時	
4、6、11、3月の第1日曜日　9時から11時 4月は開花を待っての活動（花見を兼ねる）	
活動場所	
山口市大内御堀4659番地付近	
会費等必要なもの	
苅払機があればご持参ください。	
団体からのコメント	
平成29年から活動しています。無理せず都合が合うときに参加していただければと思います。ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。	
申込等お問い合わせ先	
T　E　L	080-1912-3357（藤井）、090-4146-0977（安部）
F　A　X	
メールアドレス	

2017年（平成２９年）活動開始当初

2018 02 17

2018 02 11

2018 03 04

2018 02 17

2018 03 06

2018 03 04

2018 03 04

2018 03 04

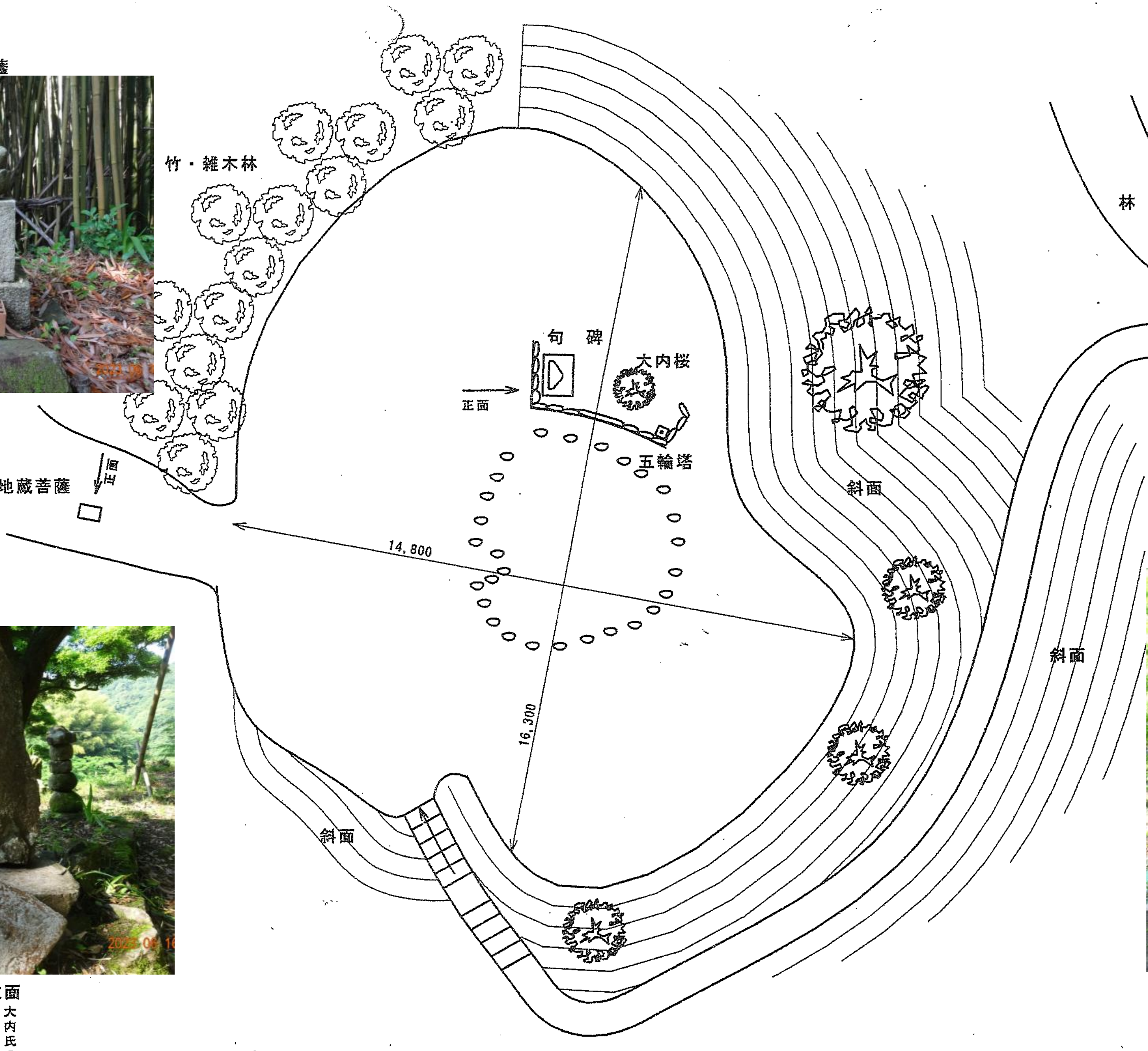
大内桜

2018 03 09

2022 04 03

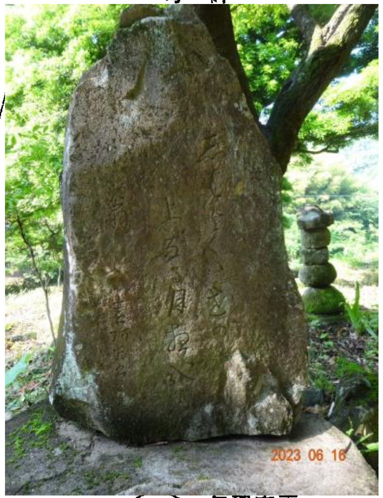
2018 03 18

大内桜が満開　 2022.04.12 撮影



文面

大内氏の
ここに
さしをく
桜杖
今に昔の
花のこいしさ
涼風



句碑文面

しばらくは
花の上なる
月夜哉

満開の花
その上に月が上がった
しばらくは月下の
花見ができそう

平成二十九年度公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド事業」

大内桜記念の森

異本大内義隆記に「太子の御ゆかりとて尋ね申ける。大内畑と云ふ所より名のり出させ玉ふ」と見える。この前後の文意頗る不明であるが、ともかく昔より琳聖太子やその子孫の居ったところと伝える。もとより根拠はない。大内桜という名木があった。その樹下の広さ席七八十枚も敷くことができると注進案にある。大内桜は枯れて今その苗が大きくなっている。嵯峨・清滝・槙の尾・松の尾などの地名がある。大内弘世の京都をまねて名づけたのであるという。これも注進案の説である。

明治二十三年十月、徳田旭梅・松尾湖水・笹原如竹等が発起人となって建てた芭蕉の句碑がある。「しばらくは花の上なる月夜哉」とある。

この地に伊勢神社という神社があった。例年十月十六七日が例祭で、それにはどち盆に黒米の団子を載せてそなえる奇習があった。団子は三十六個で最後にはおるす様にささげた。おるす様というのは附近の老木の椎のもとにある自然石の墓である。神社はもと河内社と伊勢社とが合祀してあったが、伊勢社は志多里八幡宮に合祀して今は河内社だけ残っているが、里人は猶伊勢神社と呼ぶ。右の椎木は美事な老樹で大歳様の権化として尊ばれている。

芭蕉の句碑の側には琳聖太子の墓などいう五輪塔のよせ集めの塔がある。大内盛衰記という俗書には琳聖太子のつぎの琳竜太子を大内畑に葬ったなどといっている。松尾寺のことは廃寺の条に述べてある。とにかく人跡稀といってよいほどの奥地であるので種々の伝統が伝えられる。或は昔はこの地には東助屋敷・六助屋敷・柳原屋敷・伝蔵屋敷・中屋敷・山野屋敷などいう古い屋敷があったともいう。注進案には琳聖太子の居給いし地という伝説があるが、古く御堀・矢田からこのわたりまでが皆大内村であって、この地はもと畑つものを作ったのでかく名づけたのであろう。たとえば吉敷庄に吉敷畑というところがあると同じであるといっているが、要するに大内村が先で大内畑はその後に出来た地名でなくてはならぬ。何々畑という地名は至るところにあるが、いずれも同様である。

（参考文献：河野通毅編（昭和三十三年）「大内村誌」）

平成三十年三月　大内桜の会